

昭和四十一年八月三日招集
第四回市議會臨時會會議錄

館山市議会第四回臨時会会議録

昭和四十一年八月招集

一、八月三日（水曜日）

一、現在議員三十四名でその氏名次々とおり

一番吉田勇治郎

二番鈴木正一郎

三番小柴孝

四番館石伝蔵

五番田中祿郎

六番秋山大三郎

七番田村源治郎

八番望月照正

九番安西益男

一〇番辻田実

一番石井正

一番菊井敏博

一四番志村信作

一五番小沢恵太郎

一六番関武夫

一七番黒川佐太郎

一八番西村真次

一九番藤田好治

二〇番保科忠夫

二一番江田徳太郎

二番 君塚喜三 三番 中村省吾

四番 島野茂樹郎 五番 荻生田七郎

七番 嶋田繁 八番 山田教宇

九番 鈴木市蔵 三番 安藤亀吉

一番 安沢徳順 三番 三沢節

三番 高橋文治 四番 山本昇

五番 松本藤太郎 六番 山口康

一 議事日程

第一 議案第四十七号 館山市営住宅の設置及び管理に関する

条例の一部を改正する条例の制定について

第二 議案第四十八号 昭和四十一年度館山市一般会計補正予算

第三 議案第四十九号 農業委員会委員となるべき学識経験

者の推薦について

一 議案第二十号による出席説明員

市長 本間 讓

助役 小出 武男

収入役 完戸 貴

庶務課長 山口 実

財政課長 長谷川 広治

農林水産課長 伊藤 幸太郎

農業委員会
事務局局長 山口 太一

一本議会の事務局局長 局長補佐 書記 眞

事務局局長 高梨 清一

事務局局長補佐 太田 博雄

書記 矢藤 恭一

書記 錦織 睦子

出席議員 三十三名

欠席議員 一名

午前十時三分 開議

議長(田中祿郎君) 本日の出席議員数 三十二名、

こゝより第四回市議会臨時会を開会いたします。

本臨時会の議案審査のため、地方自治法第百三十一條の
規定による出席要求に対し、本間市長、小出助役、
宛戸収入役、山口課長、長谷川課長、伊藤課長、
山口事務局長、以上七者が出席する旨の報告があ
りました。

議案を配付いたさせました。

議案の配付漏れはありませんか。―― 配付漏れがないと
認めます。

監査委員より六月実施の例月検査の報告をしております。

ます。

それぞお手元に配付しておりであります。

会議録署名員、決定を行ないます。

本臨時会、会議録署名員に一〇番議員辻田実彦、
二九番議員鈴木市蔵君以上両君を指名いたします。
二、御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(田中祿郎君) 異議なしと認めます。よって決定い
たしました。

会期、決定を行ないます。

本臨時会、会期につき議会議事協議会、意見は本日
一日というところであります。

おはかりいたします。

会期を一日と定めますことに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

議長（田中祿郎君）異議なしと認めます。よって会期は一日と決定いたしました。

本日の議事はお手元に配付の日程表により行ないます。
（以下）市長の本臨時会招集の案件について説明を求めます。

（市長 登壇）（拍手）

市長（本間讓君）本日ここに第四回市議会臨時会を招集いたしました。緊急御審議をお願いすることになりまいた。なお本案件は市内北条二千六百四十五番地の一に建設しております第一種県営住宅を百二十一万四千円で払い下げ市営住宅に移管しようというものであります。この件について、倉山市市営住宅の設置及び管理に関する条例の一部改正、並びに補正予算を願います。

うというものであります。

その他補正予算関係といつてまゝで農林水産費として観光漁業施設補助金として二百万、えさいわし蓄養場消波施設補助金等で、こゝろがなほな財源は果支出金、及び一般財源をもつて充当しようというものであります。

次に七月十九日任期満了による農業委員会委員のうち学識経験者三名を推薦をお願いしようというものであります。こゝろはいずれも急施を要する案件で極めて簡単に申し上げまいが詳細につきましては上程の都度関係課長をして説明いたさせますので、慎重審議のほどをお願い申し上げる次第でございます。議長（田中祿郎君）日程第一、議案第四十七号を上程いたします。

(書記朗読)

議案第四十七号

館山市営住宅の設置及び管理に

関する条例の一部を改正する条例
の制定について

財政課長(長谷川広治君) 議案第四十七号について説明申し上げて
上げます。

市営住宅の設置及び管理に関する条例の一部改正で
ございますが、別表一に市営住宅十二戸、位置として
北条二千六百四十五番地の一というものを加えたいという改正
でございます。

別表一と申しますと本文の条例の第一条の二に「公営住宅
法の規定に基いて市が設置する住宅の名称及び位置
は別表第一とする」ということより別表でございす。

この住宅の位置と申しますか、前に北条海岸に市の

無料休憩所を設置したことがありますが、その無料休憩所と道路とへ出てまゐる筋向いにございます。簡易耐火構造の二階建のブロック二棟十二戸でございますが、これは県営住宅として昭和三十年八月に竣工いたしました。入居をいたしておるでございますが、たまにまゐる敷地四百五十坪あります。市有地でございまして無償で誘致をいたすという関係で十一年間ばかり提供していただいております。

最近無料を有償にしたいという交渉からいろいろ話し合ひました結果、現在、県営住宅が建っております位置は観光地としても有望な地点でございまして、あの地を将来有効的というものを考えます。県が管理をいたしておりますので、市が管理をするより若干遅れがちというふうな関係から、県営

住宅と申しましても、市にありますので、市営住宅と
いう関係も持っておりますので、いろいろ折衝いた
らでございしますが、非常に安い価格で市に払い下げを
し、市営住宅として運営いたうというふうな話し合
いができて参ったわけでございます。その結果払い下げを
受け管理・運営をいたうということと、条例を提
案いたわけでございます。

なお、構造と申しますと、簡易耐火構造の二階建て
でございます。二棟ございまして、現在一種住宅で
家賃が二千二百円、価格の点で交渉いたしまして結
果、一戸当り、棟割長屋ということとでございますので、
それを一戸分として計算いたしますと、十萬二千二百四
円で払い下げようではないかという価格が建設大臣の
認可を得ましたので、十二戸分でございます。

一棟六世帯分でございますので百三十一万四千四百四十八円と
いう額になりまーた。

入居条件、そういうものは、果が管理をしてあります。条
件、そういうものを引きつぎまーて、入居者には関係なく形式
的に事業主体が変更ということでございますが、実質
的には家屋を払い下げまーて市営住宅とて管理運
営をいたしていきないうということと、条例を提出した
次第でございます。

○看(辻田実君) ちよつと伺いますけれども、事業主体の
変更ということと、市入居基準、市営住宅の管理規
程というふうなものと、果が規定との間に若干の相違
点、そういうものがあるのかどうか、それらについてはどのようにな
つておるのか、もう少しくわーい御説明をいただきた
いと思つてわけです。

財政課長（長谷川弘治君）お答えいたしますが、公営住宅法によります管理を果も市も実施してあります。入居条件とか、賃料、遵守条項、或いは許可条件、そういうものは原則はほとんど同じでございます。市が管理をしていく上で現在よりいもきつくなるというふうなことは全然ございません。

議長（田中祿郎君）議案第四十七号は討論省略原案通り可決することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

議長（田中祿郎君）異議なしと認めます。よって議案第四十七号は原案通り決定いたします。日程第二議案第四十八号を上程いたします。

（書記朗読）

議案第四十八号 昭和四十七年度一般会計補正予算（第二号）

・財政課長（長谷川治君）議案第四十八号について説明申上ります。
一般会計の補正予算でございますが、今回補正いたします額が三百七十一万五千円を歳入歳出それぞれ追加いたします。追加後、総予算額を八億三千四百九十九円にいたします。という考え方でございます。

なお細部にわたりましては四ページから申上げます。四ページが財源関係でございますが、今回も補正に合わせまして歳入関係を計上いたしますわけでございますが、四十七号議案で御決議をいただきました県営住宅の市営住宅移管に伴います家賃収入が一カ月二千二百円で十二戸分でございますので九カ月分二十三万八千円計上いたします。

それから歳出面、説明に関連いたしますが、農林水産関係の費用で歳出が執行されれば収入となる県補助金

が二百万円、事業費に対して三分の一、百万円参りま
すので、それを果支出金として計上いたしております。

十二款の諸収入として四万円、これも果営住宅の市営住宅
移管に伴う敷金収入が四万円、果から納入になります
ので、これを雑入として計上いたしました。

二百四十三万七千円、減ということになりますので、臨時特例
交付金から二百四十三万七千円を不足財源の見合として
計上いたしまして、臨時特例金として補正後の総額が
八百二十五万九千円ということになります。

以上歳入の総額でございますので、三百七十一万五千円ということに
相なります。

歳入に入りまして八款土木費住宅管理費に百二十一万五千
円を計上いたしました。これは建物購入費として計上いたして
おります。

農林水産課長（伊藤幸太郎君）農林水産業費につきまゝて申し
上げます。今回追加をお願いいたしまして、総額二百五十
万でございますが、観光施設と説明にございますが、観光漁
業施設で事業補助金として二百万円を計上いたしまして
これは今回相次漁業協同組合におきまして、果て承認を
得まして、フィッシングセンターを建てたいということと、そ
の補助金として二百万円が支出をいたわけてございます。
内容を簡単に申し上げますと、建坪にいたしまして約四
十坪、木造平屋で一戸でございます。これは観光漁業
施設ということとございまして、おもに釣り宿、釣り客の
誘致、いま一つは組合費の福利厚生施設というふうな音に
味を含みます。今回相次漁業協同組合の前よりあ
き地に建てたいという予定でございます。予定額が三
百万の事業費でございますが、そのうち三分の一、百万

月が果から参ります。うで、同額、百万円を市費持ち出しにいたしまして、二百万円を支出にいたすという事でございます。

それから、いま一つは、えさいわりの蓄養施設補助金として五十万円予定にたわけてございます。内容につきましては、簡単に申し上げます。

えさいわりの蓄養につきましては、館山湾を利用してあるわけでございますが、最近、状況からいたしますと、いろいろ問題点が出てきたようでございます。

でございますので、それにかわるべき何か施設をせむほいという要望がございまして、船形の漁業組合長さんの方から、それに対して、要望書が提出されたわけでございます。いろいろ検討いたしまして、結果、幸いいたしまして、安房水産試験所、渡辺課長さん

の肝入りによりましてごく簡単な施設を早急に考えて
みようではないかということにて試験的に消波施設簡單
に申上げますと、内防波堤というふうなことで課長さ
の設計をお願いいたしまして一応まとまりまして、その
設計に基いて今回早急にこの施設を実施したいとい
うことでございまして、予定事業費百五十万、その
うち三分の一を市の補助金をもって支出したいとい
うことで計上いたした次第でございまして、以上でござ
います。

・財政課長（長谷川広治君）以上歳出合わせまして三百七十一
万五千円に相なりまして、歳入歳出同額というのになら
います。よろしく御審議願います。

一七番（黒川佐太郎君）消波施設というのは、どういふもので
あるか、簡単に御説明願います。

農林水産課長(伊藤幸太郎君) 計画書によりますと長さ
百七十六メートル 幅が三十一メートル その大きさにあります
施設でございますけれどもドラムかんをある間隔に
ロープでゆわえまして それにもうそう竹をゆわきまして
簡単ないかだ式の施設を考へられたわけでございます。

それはいかりをもつて要所々々に打ち込みまして流出を
防ぎ、それから波の勢いをできるだけ消していきたいという
ことでございます。その設置場所は水深十メートル程度
の水面に設置、船形の西防波堤の約九十メートル沖に予定
してあるわけでございます。以上うさうなわけでございます。
議長(田中祿郎君) 議案第四十八号は討論省略原案通り
可決することに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(田中祿郎君) 異議なしと認めます。よつて議案第四十八

八号は原案通り決定いたします。
暫時休憩いたします。

午前十時三十分 休憩

午後三時十五分 再開

議長(田中祿郎君) 午後、出席議員数 三十名。

休憩前に引き続き会議を開きます。

日程第三議案第四十九号を上程いたします。

(書記朗読)

議案第四十九号 農業委員会委員となるべき学識経験

者う推薦について

一番(吉田勇治郎君) ただ今議題となっております農業委員
会委員推薦について議案に対して提案者を代表

いたしまして説明いたします。

お手元に配付の議案のとおり、亀ヶ原、和田氏、川名、仲村氏、小沼、若永氏を最適任者と認めて推薦いたしました。と思いますので、満場、御賛成をいただきたくお願い申し上げます。

議長（田中祿郎君）議案第四十九号でございますが、満場、御賛成を得て決定したいと思いますが、これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

議長（田中祿郎君）異議なしと認めます。よって決定いたしました。以上で本臨時会に付議された案件全部を議了いたしました。

よって臨時会を閉会いたします。（拍手）

午後三時二十分

開会

本日、会議に付、大事件

一、議事日程に同じ

出席議員

吉田 勇治郎

鈴木 正一郎

小柴 孝

館石 伝蔵

田中 祿郎

秋山 大三郎

田村 源治郎

望月 照正

辻田 実

石井 正

菊井 敏博

志村 信作

小沢 恵太郎

関 武夫

黒川 佐太郎

西村 真次

藤田 好治

保科 忠夫

江田徳太郎

君塚喜三

中村省吾

島野茂樹郎

藤生田七郎

鳴田繁

山田教字

鈴木市蔵

安藤亀吉

安沢徳順

三沢節

高橋文治

山本昇

松本藤太郎

山口展

欠席議員

安西益男

昭和四十二年八月三日

右各議員次第を録しここに署名す。

館山市議会議長

田中禎次

同 署各議員

鈴木市丸

同

〃

辻田実

